

防災気象情報の名称について

検討の進め方

- 中間とりまとめで整理した防災気象情報のカテゴリーに沿って、体系整理に向けた議論を進める。
- 対象となる防災気象情報の名称についても議論する。(4)

※「簡潔な情報」と「背景や根拠を丁寧に解説する情報」の両方の性質の情報もあると考えられる。

① 住民の避難に資するための「警戒レベル」に相当する情報として整理されたもの(サブワーキンググループでとりまとめ)

対応や行動が必要な状況であることを伝える簡潔な情報

対応や行動が必要であることを簡潔な情報で伝えることにより、誰もが直感的に状況を把握し、とるべき行動や対応を判断できるよう支援。

対応や行動が必要な状況であることの背景や根拠を丁寧に解説する情報

住民一人ひとりが納得感をもって具体的な対応や行動を判断できるよう支援するための情報で、報道や市区町村等の情報の伝え手がそれぞれの言葉でかみ砕いて説明したり、発令される避難情報と併せて地域に根差した呼びかけをしったりすることに活用。

③ 全般/地方/府県気象情報
記録的短時間大雨情報
顕著な大雨に関する気象情報/顕著な大雪に関する気象情報
竜巻注意情報 等

② ①以外の特別警報・警報・注意報(警報の無い注意報も含む)

防災気象情報の基盤となるデータ

利用者が自ら、または民間事業者等を通じて、データを用いて容易にカスタマイズできるような環境整備の一環として、防災気象情報の基盤となる、加工可能なデータの提供を一層充実。

⑤ 防災気象情報を活用するためのコンテンツ作りや人材の育成に係る取組を含め、防災気象情報のより一層の活用に向けた取組について検討。

【論点】

- ① 警戒レベル相当情報(土砂災害、高潮、洪水)の体系整理
- ② 警戒レベル相当情報以外の警報・注意報等の体系整理
- ③ 背景や根拠を丁寧に解説する情報の体系整理
- ④ 防災気象情報の名称
- ⑤ 防災気象情報のより一層の活用に向けた取組

今回扱う論点

- 警戒レベル相当情報（論点①）の名称
 - 危機感が適切に伝わり、警戒レベルを連想しやすい名称を検討（中間とりまとめより）。
- 警戒レベル相当情報以外の注意報・警報※1（論点②）の名称
 - 当該情報の体系整理については、改めて検討の場を設けて議論することとしているため、情報名称についても本検討会では議論しない。
- 解説情報※2（論点③）の名称
 - 利用者が情報の特性を理解しやすく、また、利用する情報にアクセスしやすい名称を検討。

※1 暴風特別警報/警報/注意報、大雪特別警報/警報/注意報等

※2 記録的短時間大雨情報、顕著な大雨に関する気象情報、全般/地方/府県気象情報等

警戒レベル相当情報の名称検討

警戒レベル相当情報の体系整理（まとめ）

◎ シンプルでわかりやすい情報体系・名称に整理

（情報名称については「防災気象情報に関する検討会」において今後検討）

【洪水】：氾濫による社会的な影響が大きい河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫を対象とした、河川ごとの情報として整理。これ以外の河川の外水氾濫については、内水氾濫とあわせて、市町村ごとに発表する大雨浸水に関する情報として整理※1。

【土砂】：発表基準の考え方を統一し、災害発生の確度に応じて段階的に発表する情報として整理。

【高潮】：潮位だけでなく沿岸に打ち寄せる波の影響を考慮し、災害発生又は切迫までの猶予時間に応じて段階的に発表する情報として整理。

		洪水に関する情報	大雨浸水に関する情報※1	土砂災害に関する情報	高潮に関する情報
		氾濫による社会的影響大の河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫	内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫		
発表単位		河川ごと	基本的に市町村ごと	基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※2
警戒レベル相当情報	5相当	洪水に関するレベル5相当情報	大雨に関するレベル5相当情報	土砂に関するレベル5相当情報	高潮に関するレベル5相当情報
	4相当	洪水に関するレベル4相当情報	大雨に関するレベル4相当情報	土砂に関するレベル4相当情報	高潮に関するレベル4相当情報
	3相当	洪水に関するレベル3相当情報	大雨に関するレベル3相当情報	土砂に関するレベル3相当情報	高潮に関するレベル3相当情報
	2	洪水に関するレベル2情報	大雨に関するレベル2情報	土砂に関するレベル2情報	高潮に関するレベル2情報

- 各情報の法的な整理については今後事務局において検討。
- 併せて、水害リスクラインやキキクルのようなホームページ等で表示する情報（プル型情報）も充実させていくことが重要。

- ※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後検討。
- ※2 発表単位をどうすべきかについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。

警戒レベルと現行の警戒レベル相当情報

【防災気象情報に関する検討会第2回資料に加筆】

- 警戒レベルとは、5段階に整理した「住民が取るべき行動」と「行動を促す情報」とを関連付けるもの。
- 警戒レベル相当情報とは、様々な防災気象情報のうち、避難情報等の発令基準に活用する情報について、警戒レベルとの関連を明確化して伝えることにより、住民の主体的な行動を促すためのもの。

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動を促す情報(避難情報等)
5	災害発生又は切迫	命の危険直ちに安全確保！	緊急安全確保 (必ず発令されるものではありません)
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示 (令和3年の災対法改正以前の避難勧告のタイミングで発令)
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認する	洪水、大雨、高潮注意報
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報

市町村は、警戒レベル相当情報の他、暴風や日没の時刻、堤防や樋門等の施設に関する情報なども参考に、総合的に避難指示等の発令を判断する

警戒レベル相当情報	住民が自ら行動をとる際の判断に参考となる防災気象情報				
	洪水等に関する情報			土砂災害に関する情報 (下段:土砂災害の危険度分布)	高潮に関する情報
	水位情報がある場合 (下段:国管理河川の洪水の危険度分布※1)	水位情報がない場合 (下段:洪水警報の危険度分布)	内水氾濫に関する情報		
5相当	氾濫発生情報 (危険度分布:黒) (氾濫している可能性)	大雨特別警報(浸水害)※2 危険度分布:黒 (※要切迫)	大雨特別警報(土砂災害) 危険度分布:黒 (※要切迫)	高潮氾濫発生情報※3	
4相当	氾濫危険情報 (危険度分布:紫) (氾濫危険水位超過相当)	危険度分布:紫 (危険)	土砂災害警戒情報 危険度分布:紫 (危険)	高潮特別警報※4 高潮警報※4	
3相当	氾濫警戒情報 (危険度分布:赤) (避難判断水位超過相当)	洪水警報 危険度分布:赤 (警戒)	大雨警報(土砂災害) 危険度分布:赤 (警戒)	高潮警報に切り替える可能性に言及する高潮注意報	
2相当	氾濫注意情報 (危険度分布:黄) (氾濫注意水位超過)	危険度分布:黄 (注意)	危険度分布:黄 (注意)		
1相当					

※高齢者等以外の人も、必要に応じ、普段の行動を見合わせたり、避難の準備をしたり、自主的に避難

上段太字: 危険性が高まるなど、特定の条件となった際に発表される情報(市町村に対し関係機関からプッシュ型で提供される情報)
下段細字: 常時、地図上での色表示などにより状況が提供されている情報(市町村が自ら確認する必要がある情報)

※1) HP上に公表している国管理河川の洪水の危険度分布(水害リスクライン)では、観測水位等から詳細(左右岸200m毎)の現況水位を推定し、その地点の堤防等の高さと比較することで警戒レベル2~5相当の危険度を表示。
 ※2) 水位情報がないような中小河川における氾濫は、外水氾濫、内水氾濫のいずれによるものかの区別がつかない場合が多いため、これらをまとめて大雨特別警報(浸水害)の対象としている。
 ※3) 水位周知海岸において都道府県知事から発表される情報。台風に伴う高潮の潮位上昇は短時間に急激に起こるため、潮位が上昇してから行動しては安全に立退き避難ができないおそれがある。
 ※4) 高潮警報は、高潮により命に危険が及ぶおそれがあると予想される場合に、暴風が吹き始めて屋外への立退き避難が困難となるタイミングも考慮して発表されるため、また、高潮特別警報は、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想される場合に高潮警報を高潮特別警報として発表するため、両方を警戒レベル4相当情報に位置付けている。
 注) 本資料では、気象庁が提供する「大雨警報(土砂災害)の危険度分布」と都道府県が提供する「土砂災害危険度情報」をまとめて、「土砂災害の危険度分布」と呼ぶ。

検討会中間とりまとめにおける記述（抜粋）

● 警戒レベルを連想しづらい情報名称（自治体アンケート※1より）

情報の名称から警戒レベルを連想しづらい情報として、「氾濫警戒情報」が180市区町村と最も多く、次いで「高潮警報に切り替える可能性が高い注意報」という回答が179市区町村とそれに続いた。また、「高潮特別警報」や「氾濫危険情報」や「氾濫注意情報」という回答も順に165、131、129市区町村と多く、これらの名称が他の情報の名称に比べて警戒レベルを連想しづらい傾向があることが分かった。

● 情報の認知度及び理解度（住民アンケート※2より）

警戒レベル3相当以上の警報・注意報等について認知度及び理解度を調査したところ、「大雨特別警報」及び「大雨警報」、「洪水警報」、「土砂災害警戒情報」は、半数を超える住民が名称、内容ともに詳細に理解していると回答し、よく知られていた一方、「高潮特別警報」や「氾濫〇〇情報」はその割合が4割前後と、認知度、理解度がやや低めだった。

● 「警報」等の用語から受ける危険度のイメージ（住民アンケート※2より）

危険度のイメージは「特別警報」が最も高く、7割を超える住民が最も危険度が高いと回答した。「危険情報」、「警戒情報」、「警報」も「注意情報」や「注意報」より危険度が高いイメージを持つ住民が多かった。

※1 防災気象情報に関する住民アンケート調査（令和4年1月）

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/shingikai/kentoukai/bousaikishoujouhou/part1/R040124_shiryuu3.pdf#page=25

※2 防災気象情報に関する自治体アンケート調査（令和3年12月～令和4年2月）

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/shingikai/kentoukai/bousaikishoujouhou/part1/R040124_shiryuu3.pdf#page=30

警戒レベル相当情報の名称検討（現行の名称を当てはめた場合）

【体系整理に基づく新たな警戒レベル相当情報に現行の名称を当てはめると…】

- 洪水に関する情報名称は、各レベルに「氾濫〇〇情報」を、警戒レベル3相当及び2にはそれぞれ「警報」「注意報」を当てはめた。
- 高潮に関する警戒レベル5相当情報は、災害発生または切迫を捉えて発表することとなるため、名称には大雨浸水※1に関する情報や土砂災害に関する情報と同様、「特別警報」を当てはめた。
- 大雨浸水※1及び高潮に関する警戒レベル4, 3相当情報の名称については、いずれも「警報」を当てはめた。

		洪水に関する情報	大雨浸水に関する情報 ※1	土砂災害に関する情報	高潮に関する情報	警戒レベル相当情報以外の特別警報、警報、注意報
		氾濫による社会的影響大の河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫	内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫			
発表単位		河川ごと	基本的に市町村ごと	基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※2	基本的に市町村ごと
警戒レベル相当情報	5相当	氾濫発生情報	大雨特別警報（浸水害）	大雨特別警報（土砂災害）	高潮特別警報	警戒レベル相当情報としての位置付け無し
	4相当	氾濫危険情報	大雨警報（浸水害）	土砂災害警戒情報	高潮警報	〇〇特別警報
	3相当	氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報（浸水害）	大雨警報（土砂災害）	高潮警報	〇〇警報
	2	氾濫注意情報 洪水注意報	大雨注意報（浸水害）	大雨注意報（土砂災害）	高潮注意報	〇〇注意報 例：暴風、大雪等

※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後検討。

※2 発表単位をどうすべきかについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。

検討にあたっての論点

(1) 対象とする現象を示すワードの置き方

- 現行の情報名称を当てはめた場合は以下のとおり。
 - 洪水に関する情報：「氾濫」、「洪水」
 - 大雨浸水に関する情報：「大雨（浸水害）」
 - 土砂災害に関する情報：「大雨（土砂災害）」、「土砂災害」
 - 高潮に関する情報：「高潮」

(2) 警戒レベルを連想しやすいワードの置き方

- 現行の情報名称を当てはめた場合、
 - 「氾濫危険情報」や「氾濫警戒情報」について、単独では警戒レベルを連想しづらいとの声がある。
 - 「警戒」のワードについて、洪水に関する情報では警戒レベル3相当情報、土砂災害に関する情報では警戒レベル4相当の名称に用いている。
 - 大雨浸水及び高潮に関する警戒レベル3及び4相当情報がいずれも「警報」となり、区別がつかなくなる。

(3) 特別警報・警報・注意報、発生情報といった社会に定着したワードや災害との関連性がわかりやすいワードの扱い

- 定着したワードや災害との関連性がわかりやすいワードを変更することの是非。
- 警戒レベル相当情報以外の特別警報・警報・注意報（暴風、大雪等）の名称は変わらないことにも留意。

(4) 現象ごとの情報名称を横並びで見たときの統一性

- 特に、洪水に関する情報（河川ごと）と大雨浸水に関する情報（市町村ごと）の名称をどのように定めるか。

前ページの表を縦方向（現象ごとの名称）と横方向（情報名称の横並び）で見たときに、それぞれの名称をどのように整理するのが望ましいか。

一般及び関係機関からの意見聴取

- 「情報の受け手における『わかりやすさ』」や「情報の伝え手における『伝えやすさ』」等の観点から、情報名称の議論におけるポイント（重視すべき事項）を把握する目的で、事務局において以下の作業を実施。

① アンケート調査

- 現行の情報名称に対する印象・評価及び名称に含めるワードに対する印象を把握するためのアンケート調査※を実施。
 - ・ 一般向けアンケート調査：令和6年2月22～27日
 - ・ 市町村（防災部局）向けアンケート調査：令和6年2月14～28日
- ※ 調査項目の検討にあたり、関谷委員、牛山副座長及び矢守座長のご協力をいただいた。

② 意見聴取

- 現行の情報名称に対する印象・評価及び情報名称の議論において重視すべきと考えられる事項を把握するため、関係機関からの意見聴取を実施。
 - ・ 都道府県（防災・河川・砂防・海岸各担当部局）からの意見聴取：令和6年2月5～19日
 - ・ 報道機関（在京キー局）からの意見聴取：令和6年2月8日
 - ・ 気象キャスターからの意見聴取※1：令和6年2月4日
 - ・ ネットメディアからの意見聴取※2：令和6年2月2日及び5日
- ※1 実施にあたり、南委員のご協力をいただいた。
※2 実施にあたり、堤委員のご協力をいただいた。

一般・市町村向けアンケート調査

【実施概要】

- 実施日 : 令和6年2月22～27日（一般向け）
令和6年2月14～28日（市町村（防災担当部局）向け）
- 実施方法 : Web入力
- アンケート詳細 : 参考資料1及び2参照

【アンケート項目概要】

<一般向け>

- 以下の警戒レベル相当情報の認知度・理解度
 - 大雨特別警報、高潮特別警報、大雨警報、洪水警報、高潮警報、土砂災害警戒情報、氾濫発生情報、氾濫危険情報、氾濫警戒情報
- 上記の警戒レベル相当情報を受け取ったときの判断
- 大雨に関する「警戒レベル」の認知度・理解度
- 警戒レベル5～1に相当する情報が発表されたときの判断

<一般・市町村向け>

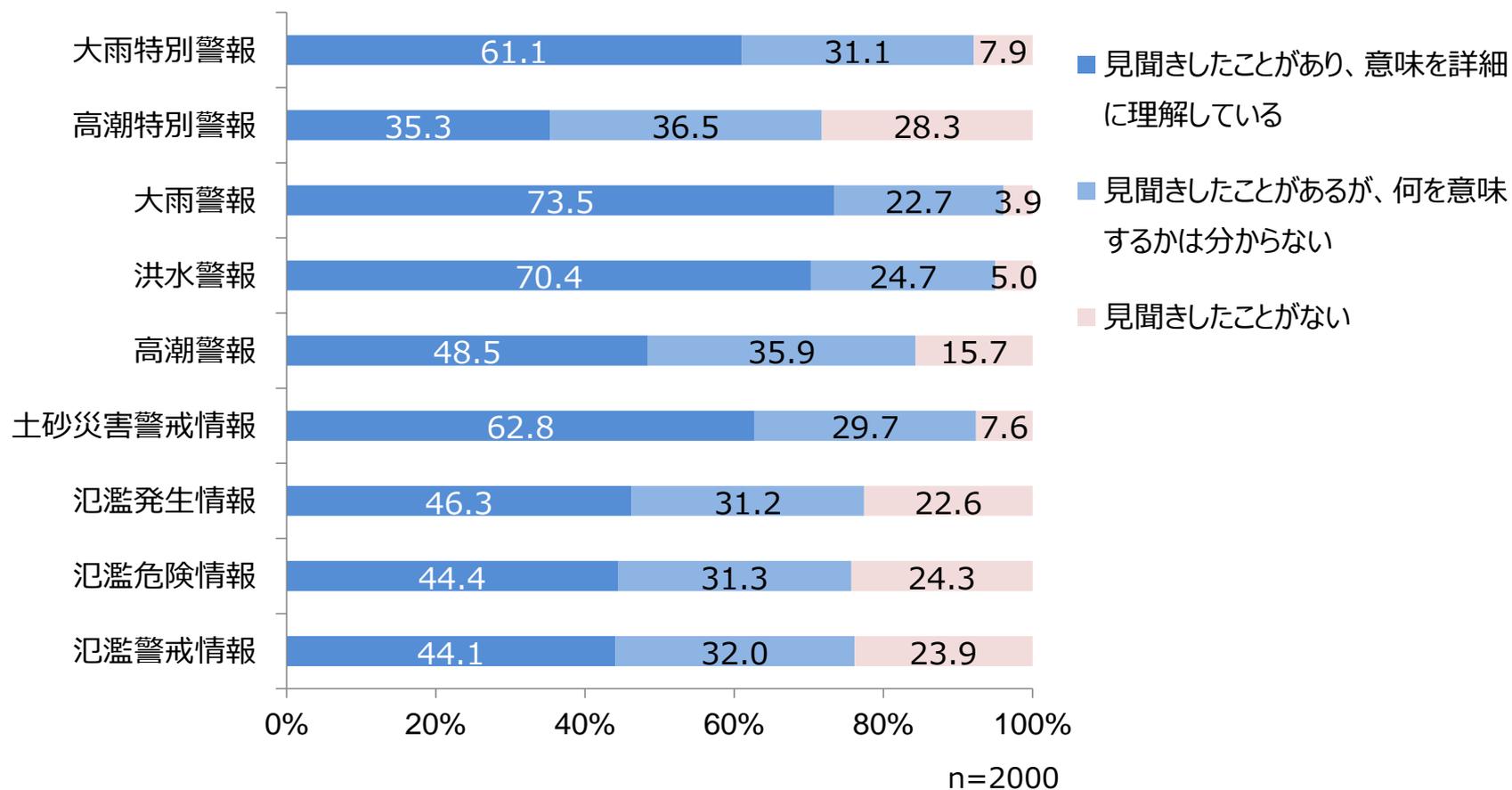
- 現行の「警戒レベル」「警戒レベル相当情報」についての印象・評価
- 洪水に関する情報名称の印象
- 洪水以外に関する情報名称の印象
- 土砂災害に関する情報名称に含める現象を示すワードの印象
- 高潮に関する情報名称に含める現象を示すワードの印象
- 洪水に関する情報名称に含める現象を示すワードの印象

一般向けアンケート調査結果（速報その1）

【一般向け：警戒レベル相当情報の認知度・理解度】

➤ 「大雨警報」「洪水警報」「土砂災害警戒情報」「大雨特別警報」の認知度は比較的高い。

あなたは次の情報を見聞きしたことがありますか。

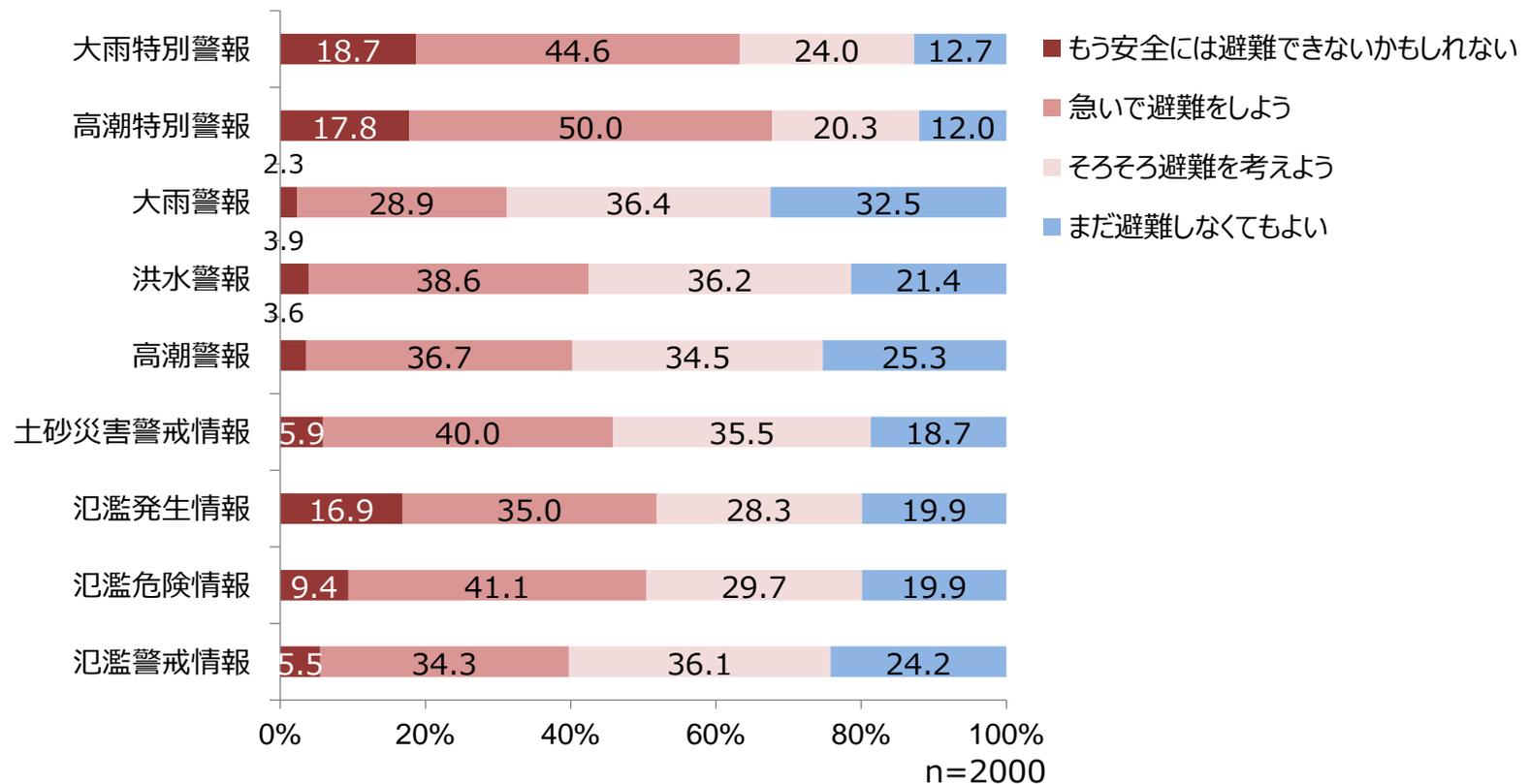


一般向けアンケート調査（速報その2）

【一般向け：各警戒レベル相当情報を受け取ったときの判断】

- 警戒レベル5相当の「大雨特別警報」と「氾濫発生情報」を受け取ったときに避難を判断する割合が比較的多い。
- 警戒レベル4相当情報のうち、「土砂災害警戒情報」と「氾濫危険情報」を受け取ったときに避難を判断する割合は全体の4割程度。

あなたのいる場所は「災害の危険性がある」という前提でお答えください。あなたのいる場所で、次の情報を受け取ったときに、あなたはどの判断すべきと思いますか。

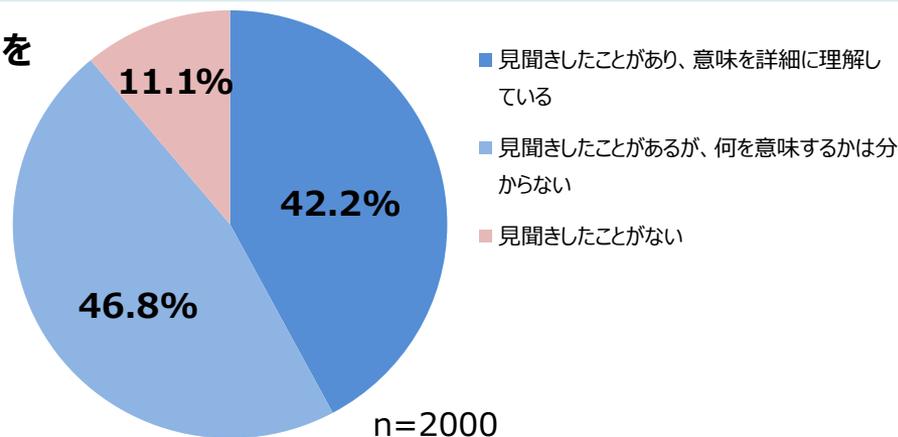


一般向けアンケート調査（速報その3）

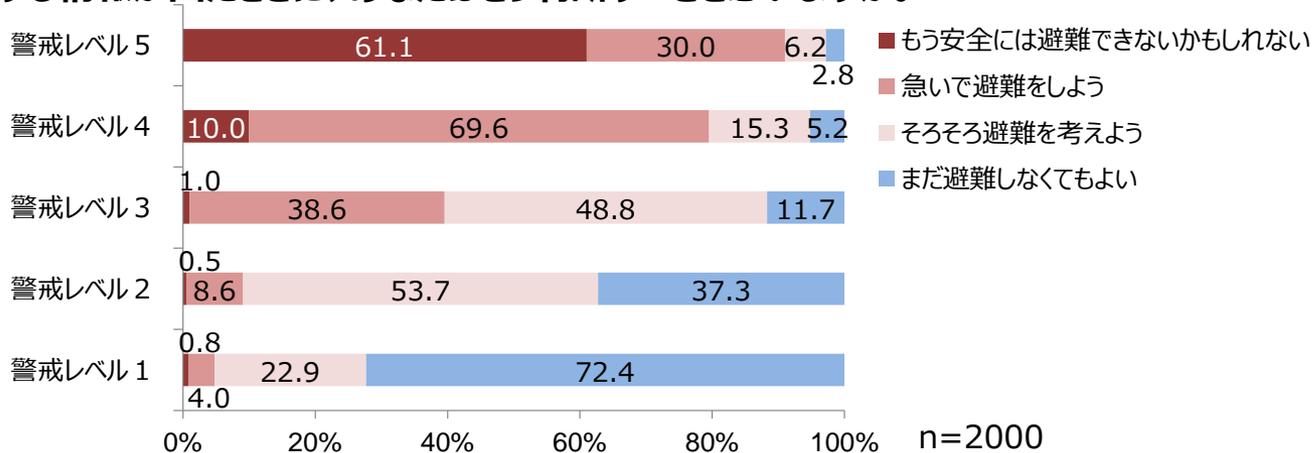
【一般向け：大雨に関する「警戒レベル」の認知度・理解度及び警戒レベル5～1に相当する情報が発表されたときの判断】

- 警戒レベルを見聞きしたことがある割合は全体の9割程度である一方、その意味を詳細に理解している割合は全体の4割程度。
- 警戒レベル5相当情報が発表されたときに、「もう安全には避難できないかもしれない」と感じる人は全体の6割程度。

あなたは大雨に関する「警戒レベル」を見聞きしたことがありますか。



あなたのいる場所は「災害の危険性がある」という前提でお答えください。あなたのいる場所で、警戒レベル5～1に相当する情報が出たときに、あなたはどのように判断すべきと思いますか。



一般・市町村向けアンケート調査（速報その4）

【一般・市町村向け：現行の「警戒レベル」「警戒レベル相当情報」についての印象・評価】

- ▶ あなたは、この（右表の）「警戒レベル」「警戒レベル相当情報」についてどう思いますか。（一般）
- ▶ 現行の警戒レベル相当情報の名称についてご意見がありましたらご記入ください。（市町村）

※ いずれも自由記述で意見募集

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動を促す情報（避難情報等）	住民が自ら行動をとる際の判断に参考となる防災気象情報			
				洪水等に関する情報		土砂災害に関する情報	高潮に関する情報
5	災害発生又は切迫	命の危険直ちに安全確保！	緊急安全確保	水位情報がある場合	水位情報がない場合		
5相当				氾濫発生情報	大雨特別警報（浸水害）	大雨特別警報（土砂災害）	高潮氾濫発生情報
～＜警戒レベル4までに必ず避難！＞～							
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示	氾濫危険情報		土砂災害警戒情報	高潮特別警報 高潮警報
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難	氾濫警戒情報	洪水警報	大雨警報（土砂災害）	高潮警報に切り替える可能性に言及する 高潮注意報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認する	洪水注意報 大雨注意報 高潮注意報	氾濫注意情報	洪水注意報	大雨注意報	高潮注意報
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1相当	早期注意情報		

＜一般からの主な意見＞

- 災害の種類によって、「発生」と「特別」とか、「危険」と「警戒」とか、紛らわしいところがあるので、統一されていた方が分かりやすいと思う。
- 言葉の数が多すぎて分かりにくいと思う。特に緊急時には考えなくても分かりやすい表現の方がいい。
- 似たような名前が多くてわかりづらいので、〇〇情報をやめて全てレベル表記にすればよいと思う。
- 警報とつくと危機感を感じ、情報とつくと用心しなければならないくらいだと思う。
- 数字が大きい方が危ないのか少ない方なのか、迷いがち。介護認定と同じで数字が大きい方がまずいと覚えるようにしている。
- 警戒レベル相当という言葉が分かりにくい。
- 相当が付くと緊急度が薄れる。
- はじめてみるひとにも分かりやすい言葉に変えられるとよい。そういう意味だと把握していても、なかなか避難しようとは考えにくい。
- このような警戒レベルなどの情報はここ10年くらいでしょっちゅう変わり中々定着していない気がする。もっとわかりやすくそれこそ幼稚園児でもある程度わかるような感じだと誰もが行動しやすくなると思う。

一般・市町村向けアンケート調査（速報その4：続き）

＜市町村からの主な意見＞

- 情報によって、レベルごとに名称の表記の仕方に違いがあるため、一般住民に向けてわかりやすく伝えたいのであれば、名称の表記の仕方を統一的にするなど検討する必要があると考える。
- 現状では、災害種別により防災気象情報の各名称が異なり、理解が難しい。そのため、「○○注意報」、「○○警報」、「○○特別警報」もしくは「○○注意情報」「○○警戒情報」「○○危険情報」「○○発生情報」のいずれかの表現に統一するのが望ましいと考える。
- 災害の事象によって同じ警戒レベルでも「警戒情報」や「危険情報」「警報」など文言に統一性がなく分かりづらい。また、水位情報の有無によって情報の名称が異なるが、専門的な言葉に慣れていない住民にとっては複雑だと思うため、統一した方が良いのではないかと考える。
- 災害発生が予想される際には様々な情報が発表され、用語が難しいこともあり市民への情報伝達及び職員への情報共有の際にも伝わりづらいと感じている。名称で内容を伝えるというよりも情報の本質（危険度）を高齢者や子どもにも伝えやすいようシンプルな名称が望ましい。
- 長い名称は煩雑になることから避ける方が良いと考える。
- 土砂災害に関する情報として、大雨警報等があるが、この情報が土砂災害の警戒を表すものか直感的には認知しにくい表現と思われる。「土砂○○」とするなど、土砂災害の警戒度を表すものとして分かるようにした方が良いと思われる。
- レベル4相当で土砂災害警戒情報という名称は、警戒という名が危機感を感じない。
- 水位情報については、発生・危険・警戒がどのレベル相当なのか覚えるまで時間がかかると思う。一般市民だとなおさら分からないと思われる。
- 「警戒レベル」と「警戒レベル相当情報」との区別は、住民にとっては難しく、混乱を招く場合もあると感じている。

一般・市町村向けアンケート調査（速報その5）

【一般・市町村向け：洪水に関する情報名称の印象】

- ▶ 水位に関する情報の新たな名称の案として以下の案A～Dが考えられます。「○○」の部分には、「氾濫」や「洪水」など、警戒対象となる現象の名前が入ります。
- ▶ あなたは、これらの案A～Dについてどう思いますか。（一般）
- ▶ これらの案A～Dについてご意見がありましたらご記入ください。（市町村）

警戒レベル相当情報	A	B	C	D
5相当	○○発生情報レベル5	○○特別警報レベル5	○○警報5	○○レベル5
4相当	○○危険情報レベル4	○○警報レベル4	○○警報4	○○レベル4
3相当	○○警戒情報レベル3	○○警報レベル3	○○警報3	○○レベル3
2(相当)	○○注意情報レベル2	○○注意報レベル2	○○注意報2	○○レベル2

※ いずれも自由記述で意見募集

＜一般からの主な意見＞

- A案が各レベルの状態が具体的でわかりやすく良いと思う。C、Dは、人によって捉え方が異なり、正しく伝わらない可能性があると思う。
- 危険、警戒、注意は違いがいまいち分かりづらいのでいらないと思う。まぎらわしい。
- B案が一番理解しやすいと思った。意味を持つ単語が、多すぎても混乱するし、少なすぎて数字のみで覚えておくのも自信がないと感じた。
- Bがわかりやすい。注意報→警報→特別警報と段階を踏んでいて、わかりやすい
- A,Bは発生、危険など漢字が多く、災害時に一目見ただけでは分かりにくいと思った。
- AやBのように言葉を添えた方が意味も連想できて覚えやすそう。
- Dが1番シンプルで良いと思う。災害時は、短時間でいかに少ない情報で多くの人に周知させるかが鍵となるので、わかりやすい物がいいと思う。
- 数字で表すことの分かりやすさはあるが、その数字の感覚が市民に根付くまで周知し続ける必要がある。
- 特別という文言が危機感を持たせると感じた。

一般・市町村向けアンケート調査（速報その5：続き）

＜市町村からの主な意見＞

- A案の情報名称は、発生＞危険＞警戒＞注意とレベルごとに名称を使い分けているため判別しやすく、かつ既存の名称であり浸透しているため、適当であると考えます。
- 全く新しい名称は周知と理解に時間がかかり、多くの誤解を生む。なるべく既存の考え方や判断基準に即した用語でまとめる事で、誤解をある程度抑えられますのでAが最も良いと思料。
- 高齢者等は既存の情報名称を優先した方が警戒レベルの高さが分かり易いと考えます。
- B案が良いと思う。警戒レベル1～2（避難準備）、3～4（避難行動）、5（緊急安全確保）について対応すべき行動が違いため、警報の名称はこれが良いと思う。既存のA案は各情報名称と災害の発生状況が直感的にわかりづらいため反対。
- これまでの警戒レベル相当の情報は分かりづらかったという一方で、○○注意報、○○警報、○○特別警報といった言葉は国民に定着していると感じているので、B案が良いと思う。
- 一般住民は、警戒情報、危険情報、警報といった名称の意味や違い等を完全に理解できている人ばかりではない。名称の表記を統一することで、よりシンプルな形でわかりやすく伝わるD案がよいと考える。
- Dがシンプルで市民にも理解されやすいと思うが、自治体が発する避難情報と錯誤の恐れがあるため、「○○レベル3相当」と相当を付けるべきと考える。
- 防災無線等の放送を考慮するとシンプルさを重視する「D」が分かり（聞き）やすい。
- 住民に既存の名称を周知してきたが、浸透はしていないと思われるので、覚えやすい案「D」が良いと考える。

一般・市町村向けアンケート調査（速報その6）

【一般・市町村向け：洪水以外に関する情報名称の印象】

▶ 水位に関する情報以外の新たな情報名称の案として以下の案A～Cが考えられます。「○○」の部分には、「大雨」や「高潮」など、警戒対象となる現象の名前が入ります。

▶ あなたは、これらの案A～Cについてどう思いますか。（一般）

▶ これらの案A～Cについてご意見がありましたらご記入ください。（市町村）

警戒レベル相当情報	A	B	C
5相当	○○特別警報レベル5	○○警報5	○○レベル5
4相当	○○警報レベル4	○○警報4	○○レベル4
3相当	○○警報レベル3	○○警報3	○○レベル3
2(相当)	○○注意報レベル2	○○注意報2	○○レベル2

※ いずれも自由記述で意見募集

＜一般からの主な意見＞

- Aのほうが避難しようという気持ちが強くなった。Cは特に伝わりにくく感じた。
- A案のように注意、警報、特別警報と段階で表示することで危機感が伝わりやすいと思う。
- 特別警報の言葉がインパクトあり。
- Bだと数字の意味がわかりづらい。
- 子どもでも読めることを考えるとCが分かりやすい。
- レベルだけで表すC案のほうが他の二つより覚える文字が少ないので若干良いと思った。
- C案のようにレベルという言葉だけでは、緊張感を持った行動ができにくいので、置かれている状況と結びつけられるようなAB案にすべきだと思う。

一般・市町村向けアンケート調査（速報その6：続き）

＜市町村からの主な意見＞

- A案が良いかと思う。特別警報は分かりやすくインパクトもあるため残したほうが良いと思う。
- シンプルな情報名称にすると理解しやすくなる一方で、あまり詳細が伝わらず、どのような状況だから避難が必要といった経緯が分かりにくくなる可能性がある。そのため、既存の情報名称を優先する「A」案に賛同。
- 「B」「C」案はシンプルな反面、初めて見た者は、状況を直感的に捉えにくい可能性がある。
- 案Bは「警報 第何報」を表しているように見える。
- 行政ではなく住民目線で考えた場合、分かりやすさは大切と思う。そのことを考えると、C案はわかりやすいと思う。
- Cがシンプルで市民にも理解されやすいと思うが、自治体が発する避難情報と錯誤の恐れがあるため、「〇〇レベル3相当」と相当を付けるべきと考える。
- Cについて、警戒レベル相当情報を把握している人であれば理解できると思うが、警戒レベル相当情報を把握していない人だと分かりづらいのではないかと思う。
- 警報、注意報という名称について、すでに国民に根付いていると考える。今回、検討の結果、たとえば暴風警報、竜巻注意報は残ったが、大雨警報、大雨注意報という名称はなくなり、「警報」、「注意報」とは異なる名称に変更となった場合、警報、注意報という名称が国民に根付いている中、変更によりかえってわかりづらくなる恐れがあると考え。
- 河川付近に居住している住民のことを考慮すると、「『水位情報がある河川に関する情報』以外の新たな情報名称」を基準とし、「水位情報がある河川に関する新たな情報名称」を合わせる形がわかりやすいと考える。
- 水位情報がある河川と同様に、2相当から5相当の段階で発表するなら、情報名称は同じように、〇〇発生情報レベル5、〇〇危険情報レベル4、〇〇警戒情報レベル3、〇〇注意報レベル2、とするのが適切と考える。

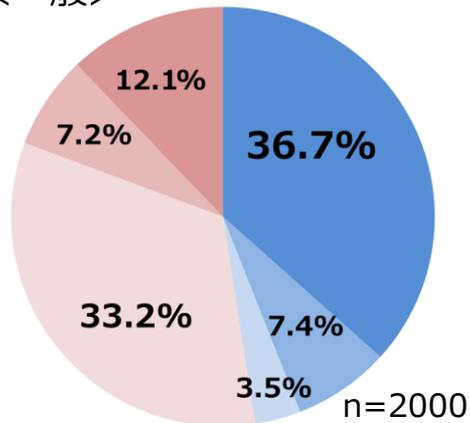
一般・市町村向けアンケート調査（速報その7）

【一般・市町村向け：土砂災害に関する情報名称に含める現象を示すワードの印象】

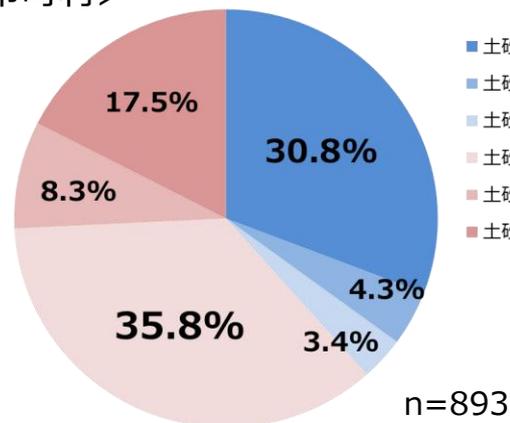
- 土砂災害に関する情報であることを示す「土砂」「土砂災害」のワードについて、一般では大差はないが、市町村は「土砂災害」の方が若干割合が高い。
- 一般・市町村とも、「特別警報」を用いる名称を選択した割合が高い。

土砂災害に関する情報について、次※のように表現するとしたら、どれが良いと思いますか。 ※凡例参照

<一般>



<市町村>



- 土砂特別警報レベル5 土砂警報レベル4 土砂警報レベル3 土砂注意報レベル2
- 土砂警報5 土砂警報4 土砂警報3 土砂注意報2
- 土砂レベル5 土砂レベル4 土砂レベル3 土砂レベル2
- 土砂災害特別警報レベル5 土砂災害警報レベル4 土砂災害警報レベル3 土砂災害注意報レベル2
- 土砂災害警報5 土砂災害警報4 土砂災害警報3 土砂災害注意報2
- 土砂災害レベル5 土砂災害レベル4 土砂災害レベル3 土砂災害レベル2

青 が「土砂」
赤 が「土砂災害」の割合を示す

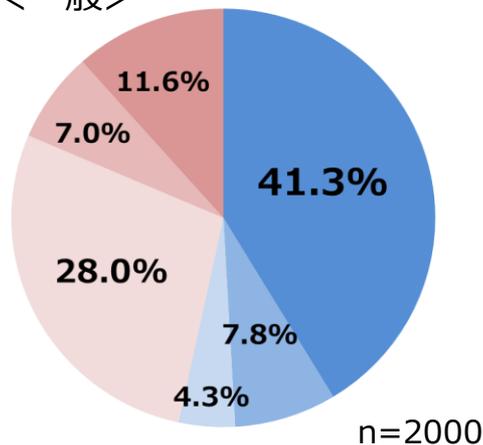
一般・市町村向けアンケート調査（速報その8）

【一般・市町村向け：高潮に関する情報名称に含める現象を示すワードの印象】

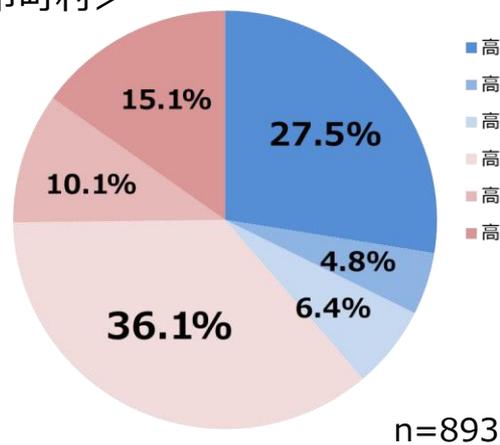
- 高潮に関する情報であることを示す「高潮」「高潮高波」のワードの印象について、一般は大差はないが、市町村は「高潮高波」の方が若干割合が高い。
- 一般・市町村とも、「特別警報」を用いる名称を選択した割合が高い（特に、「高潮特別警報」を用いる名称について、一般では4割を超える選択）。

潮位（海面の高さ）が急激に上昇する「高潮」と沿岸に打ち寄せる波「高波」の現象を併せて発表します。この現象の名前を表現するとしたら、次※のどれが良いと思いますか。 ※ 凡例参照

<一般>



<市町村>



- 高潮特別警報レベル5 高潮警報レベル4 高潮警報レベル3 高潮注意報レベル2
- 高潮警報5 高潮警報4 高潮警報3 高潮注意報2
- 高潮レベル5 高潮レベル4 高潮レベル3 高潮レベル2
- 高潮高波特別警報レベル5 高潮高波警報レベル4 高潮高波警報レベル3 高潮高波注意報レベル2
- 高潮高波警報5 高潮高波警報4 高潮高波警報3 高潮高波注意報2
- 高潮高波レベル5 高潮高波レベル4 高潮高波レベル3 高潮高波レベル2

青 が「高潮」
赤 が「高潮高波」の割合を示す

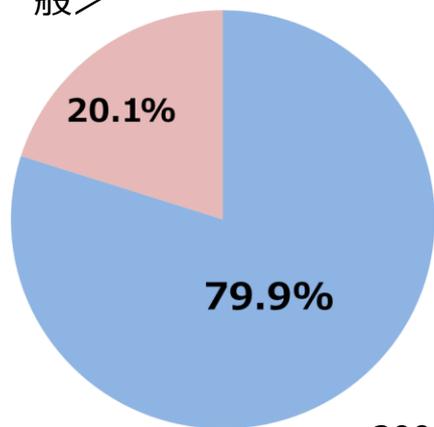
一般・市町村向けアンケート調査（速報その9）

【一般・市町村向け：洪水に関する情報名称に含める現象を示すワードの印象】

- 洪水に関する情報であることを示す「氾濫」「洪水」のワードの印象について、一般、市町村ともに「氾濫」の方が割合が高い。

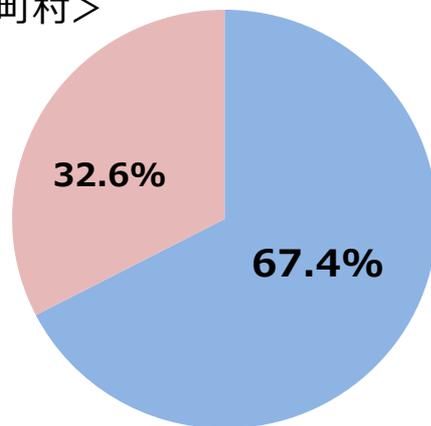
河川から水があふれて周辺に被害が発生する現象の名前を2文字で表現するとしたら、次※のどちらが良いと思いますか。 ※凡例参照

<一般>



n=2000

<市町村>



n=893

■ 氾濫 ■ 洪水

青 が「氾濫」
赤 が「洪水」 の割合を示す

都道府県からの意見聴取

【実施概要】

- 実施日 : 令和6年2月5～19日
- 実施方法 : Web入力
- 対象 : 都道府県 防災担当部局、河川担当部局、砂防担当部局、海岸担当部局
- 意見募集項目
 - ① 現行の警戒レベル相当情報の名称についての印象、評価
 - ② 警戒レベル相当情報の名称の議論において重視すべき（ポイントとなる）と考えられる事項

【実施結果】

21都府県36部局より回答（部局内訳：防災担当17、河川担当7、砂防担当8、海岸担当4）

<主な意見>

- ① 現行の警戒レベル相当情報の名称についての印象、評価
 - ・ 名称を聞いただけで、どのくらいのレベルなのか一般の人にとっては分かりにくいと思う。
 - ・ 「〇〇情報」という表現では緊迫性が低いと思われる。
 - ・ 洪水等に関する情報について、氾濫や洪水、浸水害など、ワードが乱立しすぎている。
 - ・ 気象特別警報、気象警報等については、住民の多数が概ね認知していると考えられるが、洪水予報や水位到達情報等は、その意味を理解している住民は少数と考えられる。
 - ・ 大雨『特別警報』、大雨・洪水『警報』、大雨・洪水『注意報』以外の情報名称については、広く定着していない印象がある。
 - ・ 洪水等に関する情報と土砂災害に関する情報で「警戒」という言葉が警戒レベルで横並びで揃っていない。そのため、警戒レベルを誤認する恐れがある。
 - ・ 現行の名称では、言葉による表現がその切迫度を正しく伝えられていない可能性がある。（理由として、例えば、「危険」と「警戒」という言葉がどちらのほうが切迫しているかというイメージが人によって違う。）
 - ・ 現行の「〇〇注意報」、「〇〇警報」は長年定着し、住民にとっても慣れ親しんだ呼称であるのに対し、「〇〇情報」はどのレベルの情報であるのかがわかりにくい印象を受ける。
 - ・ 土砂災害警戒情報と大雨警報（土砂災害）について、どちらが危険かわかりにくい。
 - ・ 大雨警報内に（土砂災害）と、（浸水害）があり、大雨警報だけでは警戒対象がわからない。

都道府県からの意見聴取

<主な意見（続き）>

- ② 警戒レベル相当情報の名称の議論において重視すべき（ポイントとなる）と考えられる事項
- 特別警報については定着してきたので、残したうえで事象がわかるように。
 - 「相当情報」の意味が伝わらない。
 - 「相当情報」の文字を入れてしまうことで、名称が長くなり分かりづらい。
 - 分かりやすさのため、防災気象情報の名称に数字（レベル1～5）を含めることの検討。
 - 誤認を防ぐために、情報名の横並びや単純化することを重視すべき。「注意」「警戒」「危険」等の単語は、警戒レベルに合わせて横並びとする、発生する災害に着目し、「土砂災害レベル3」のように警戒レベル名にする等。
 - 各情報の名称を見ただけでレベルが分かる名称を検討すべき。わざわざ、〇〇警報、〇〇注意報、△△発生情報、△△危険情報等文字の意味を考えないと程度が分からず、また、レベル感の対応表を見ないとレベルが分かりにくいような名称は避けた方がよいと思う。例えば、大雨情報（レベル5）、洪水情報（レベル5）、土砂情報（レベル5）、高潮情報（レベル5）のようなシンプルな形が最も分かりやすいと思う。
 - 種類にかかわらず、すべての警戒レベル相当情報において、伝達方法を統一してほしい。レベル相当情報にはレベル2→注意報、レベル3→警報、レベル4→特別警報、レベル5→緊急特別警報と位置づけして、キーワードとして土砂災害や河川名、大雨浸水等を付加することが分かりやすいのではないか。（レベル4→特別警報は例えであり、レベル5→特別警報が定着しているのであれば、レベル4は他の名称を検討する必要がある）
 - 一般の方が情報を見た際に、分かりやすく危機感が伝わりやすい内容とすること。例えば、「土砂警戒レベル5相当」「洪水警戒レベル3相当」などとし、災害種別での統一感やレベルを名称とする等。
 - 「注意」「警戒」「危険」という言葉より、レベル+数字、色が端的でわかりやすい。
 - 川が溢れなくても雨で浸水する“大雨”は、例えば、“内水”または“浸水”と表現するなど、実際に生じる現象がイメージできる表現が適切ではないか。

報道機関（在京キー局）からの意見聴取

【実施概要】

- 実施日 : 令和6年2月8日
- 実施方法 : 対面による聴取
- 参加機関 : NHK、日本テレビ、TBSテレビ、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京
- 意見募集項目
 - ① 現行の警戒レベル相当情報の名称についての印象、評価
 - ② 警戒レベル相当情報の名称の議論において重視すべき（ポイントとなる）と考えられる事項

<主な意見>

- 現象ごと、レベルごとにバラバラではなく統一感あるものとするのが望ましい。放送局では話し言葉にする必要があるの
で、括弧がつく情報名は避けてほしい。
- 「警戒レベル相当情報」と「警戒レベルの違い」が社内では理解されていない。警戒レベルをメインで考えるなら、「警
報」「注意報」のワードは名称からなくしてもよいと思う。「警報」「注意報」が前面に出てしまうと、警戒レベルを覚えてもら
えない。
- 名称の文字数はなるべく少なくするのが良い。字幕は十数文字が最善で、情報名称が長くなると字幕スーパーでは短
縮されてしまう。短縮のしかたが各社でバラバラになってはいけなないので、略す必要がないぐらいの長さが望ましい。
- これまでの情報名称で対応している人もいて、「警報級」という言葉の意味は重い。レベルの数値を前面に出しつつ、
「警報」の表現を絡ませることも一案。
- ゆくゆくは警戒レベルの数字を名称に用いることに賛成だが、一気に変わるとついていくのが大変なので移行期のような
ものがあってもよいのではないか。
- 注意報、警報、特別警報は定着しており、利活用もされているので、引き続き活かしてほしい。
- 文字数が多かったり漢字が多かったり、名前が同じなのにレベルが違ったりするのは解消していただきたい。
- 河川の氾濫注意、氾濫警戒、氾濫危険、氾濫発生という名称を他に当てはめるというのもありなのではないか。ただ、
警戒レベル5は発生または切迫なので、全部横並びで発生と言っていいものか、など難しい面もある。
- 警戒レベル3相当と4相当を警報とした場合、レベルが異なるのに警報という同じワードが用いられるのは望ましくないと
思う。
- 「洪水」と「浸水」は、一般の人が違いを理解するのが難しいと思われるので留意が必要。

気象キャスターからの意見聴取

【実施概要】

- 実施日 : 令和6年2月4日
- 実施方法 : 対面による聴取
- 参加機関 : NPO法人気象キャスターネットワーク、オフィス気象キャスター株式会社、株式会社ウェザーマップ、株式会社ウェザーニューズ、一般財団法人日本気象協会、株式会社ウイング、株式会社南気象予報士事務所
- 意見募集項目
 - ① 現行の警戒レベル相当情報の名称についての印象、評価
 - ② 警戒レベル相当情報の名称の議論において重視すべき（ポイントとなる）と考えられる事項

<主な意見>

- ・ 現状、情報の説明をする際に、「レベル〇に相当する情報です。」と補足しなければならない。情報名称に警戒レベルの数字が含まれるようになれば、そういった補足解説をする必要がなくなり、シンプルに解説できる。
- ・ 情報名称と危機感の大きさがリンクする形で住民に浸透することが重要。いくら言葉を工夫して伝えたところで言葉の捉え方は人によってさまざまであり、危機感の大きさをリンクさせるには情報名称には警戒レベルの数字が入ることが必要。
- ・ 現状、暗記しないと危険度の段階が分からないため、危険度を示すキーワードが情報名にあると良い。アンケートでは、「切迫」や「緊急」が「特別」よりも切迫感があるという結果もあり、警戒レベル4相当情報のキーワードとして用いることも一案。
- ・ 住民や自治体の防災対応という観点では、警戒レベルの数字が情報名にあると良い。また、現状の大雨特別警報は、大規模な災害を想定して発表されている実態があり、特別警報のようなパワーワードがないとメディアは報じにくい。名称にはレベルの数字とパワーワードの両方が必要ではないか。
- ・ 注意報、警報、特別警報は知っているが、警戒レベルを知っている人はほとんどいないという印象を持っている。警戒レベルが理解されていなければ、情報名称にレベルの数字を含めるべきか悩ましい。現在の情報に警戒レベルの数字を付し、視聴者が数字に触れる機会を増やすことで、警戒レベルを浸透させてから情報名称を変更するのが良いのでは。
- ・ 特別警報は過去の調査からも危機感が高まることは明らかであり、情報名称として残すべき。
- ・ 現状、警報という言葉は子供にも浸透している。警戒レベル相当情報だけ情報名称に警報を用いず、大雪や暴風だけ警報が残ることになると混乱するのでは。
- ・ 「警報級」という言葉は警戒度を上げるためのものとして浸透しており、現状から大きく変えるべきではないのでは。
- ・ 日常会話の中にも出現する「大雨」という浸透しているワードを、体系整理した際に名称からなくさない方が良いのでは。

ネットメディアからの意見聴取

【実施概要】

- 実施日 : 令和6年2月2日、5日
- 実施方法 : 対面・オンラインによる聴取
- 参加機関 : LINEヤフー株式会社、ゲヒルン株式会社（個別に実施）
- 意見募集項目
 - ① 現行の警戒レベル相当情報の名称についての印象、評価
 - ② 警戒レベル相当情報の名称の議論において重視すべき（ポイントとなる）と考えられる事項

＜主な意見＞

- 「洪水」、「浸水」、「外水」、「内水」というワードは受け手としては区別がつきにくい。発災時のとるべき行動も「水がくるから逃げる必要がある」という点は変わらないはず。河川ごとの洪水に関する情報と市町村ごとの大雨浸水に関する情報は、あまり違いを意識させない名称とすべきでは。なお、何を起因とする情報なのか詳細な情報は、通知から誘導したWebサイトにあってもよい。
- 一般論として、情報名称は短い方が良いことは理解する。一方、短くすればするほど良いとは限らない。アプリ等の通知では、情報名称を記述したタイトルで危険な状況を伝え、通知を開いて詳細な情報を確認してもらうこととなるため、適度に短い名称とするのがよい。
- 同じ現象についての情報名称は揃えた方がよい。他の現象の情報名称との横並びもある程度揃っていることが望ましいが、必須ではない。現象名も2文字にこだわる必要はない。
- 「特別警報」や「警報」という名称は市民権を得ており、現行の名称を活かせるとうよい。「特別警報」を別の名称とすると、それを周知する労力が別途かかる。
- 情報名称の文字数については短い方が望ましいが、短くすることによって情報の意味合いを理解できない名称となつては本末転倒であるので、短くすることは必須ではない。
- 情報名称の横並びについては、揃っていた方が望ましい。市町村ごとの「特別警報」や「警報」に揃えるやり方と、河川ごとの「危険情報」や「警戒情報」に揃えるやり方と、いずれもあり得ると考える。

一般及び関係機関からの意見聴取（まとめ）

- 一般及び関係機関からの意見を見ると、警戒レベル相当情報の名称は統一的に整理されたものとする方向性は一致しているものの、その整理については様々な意見があった。
- 収集・聴取した意見の主なポイントをまとめると以下のとおり。これらを踏まえ、論点への対応案及び情報名称のイメージを整理する。

【主なポイント】

※ ポイント③と④、⑥と⑦は両立に工夫がいる意見となっている。

<全般>

ポイント① 現象ごとの名称は統一的に整理するのが良い。

ポイント② 名称の横並びはできるだけ揃えた方が良い。

<名称の長さ>

ポイント③ 名称はできるだけ短くする方が望ましい。

ポイント④ 短くすることによって情報の意味合いを理解できない名称となることは望ましくない。

<警戒レベルを連想できる名称>

ポイント⑤ 名称に相当するレベルの数字を含めるのが良い。

➢ 一部の市町村からは、避難指示等の警戒レベル情報そのものとの混同を懸念する声あり

<社会に定着したワードの扱い>

ポイント⑥ 警報等の社会に定着したワードや災害との関連性がわかりやすいワードは残した方が良い。特に、特別警報は高い危機感を伝えるワードとして定着している。

ポイント⑦ 現象とレベルを伝えるシンプルな名称とするのが良い。

<その他>

ポイント⑧ 新たな情報名称を設定しても、「警戒レベル」そのものと「警戒レベル相当情報」の意味を理解していないと、情報の意味する内容が正しく伝わらないことを懸念する声もあり。

論点への対応案（1）

(1) 対象とする現象を示すワードの置き方

- **ポイント③**を踏まえ、現象を端的に伝えるワードを置くのが良いのではないかな。
- 一方で、**ポイント④**を踏まえると、情報の意味合いを理解できるワードを置く必要がある。
- 各現象に対するワードの案は以下が考えられるが、上述の点を踏まえ、以下赤字のワードを候補することとしてはどうか。

【案】

種別	ワード案（2文字）	ワード案（4文字）
洪水	洪水 氾濫	洪水浸水 河川氾濫
大雨浸水	大雨 浸水※	大雨浸水
土砂災害	土砂	土砂災害 土砂崩れ
高潮	高潮	高潮浸水 高潮高波

※浸水は大雨のみならず、洪水や高潮、津波によっても発生することに留意。

(2) 警戒レベルを連想しやすいワードの置き方

- **ポイント⑤**を踏まえ、名称に相当する警戒レベルを示す数字を「レベル●」の形で置くと明瞭になるのではないかな。
- 「○○警報レベル4」、「○○レベル4 警報」のようなイメージ
- 警戒レベルの周知・啓発にもつながるのではないかな
- 相当する警戒レベルを示すワード（「危険」、「警戒」等）を統一的に用いることも考えられるが、情報の受け手によって感じ方や連想するレベルが異なってしまう可能性がある。
(次頁に続く)

論点への対応案（2）

(2) 警戒レベルを連想しやすいワードの置き方（続き）

- 警戒レベルの数字とあわせて「相当情報」や「相当」のワードを付すとわかりにくいとの意見もある一方で、警戒レベルの数字を付すと、市町村が発令する警戒レベル情報（警戒レベル4 避難指示など）との混同を懸念するとの意見が一部の市町村からある。
 - 自治体が発令する避難情報（居住者等に行動を促す情報）と防災気象情報（居住者等が自ら行動をとる際の判断に参考となる情報）が混同されると、自治体と住民で避難が必要な地域やタイミングの認識にずれが生じるとともに、例えば、避難指示（警戒レベル4）が発令された際に警戒レベル3相当の防災気象情報が発表されていた場合、低いレベルを認識し避難の必要がないと判断されるなどの懸念が想定される。

(3) 特別警報・警報・注意報、発生情報といった社会に定着したワードや災害との関連性がわかりやすいワードの扱い

- **ポイント⑥**のとおり、社会に定着したワード等は、引き続き名称に用いるのが良いのではないかと。定着したワードとは異なる新たなワードを用いることとした場合、社会的な影響が大きくなるおそれ。
- **ポイント⑦**のように、シンプルに現象と警戒レベルの数字のみの名称とする案（「○○レベル4」など）も考えられるが、レベルという言葉だけでは緊張感を持った行動ができにくいとの意見もある。
- 「情報」のワードでは緊迫性が低いと思われるとの意見もある。

(4) 現象ごとの情報名称を横並びで見たときの統一性

- **ポイント②**を踏まえ、名称の横並びを揃えるのが良いのではないかと。この場合、以下のイメージが考えられる。
 - （イメージ1）洪水に関する情報について、大雨浸水、土砂災害及び高潮に関する情報と同様に「特別警報」、「警報」及び「注意報」のワードを用いる。
 - （イメージ2）大雨浸水、土砂災害及び高潮に関する情報について、洪水に関する情報と同様に「発生情報」、「危険情報」、「警戒情報」及び「注意情報」を用いる。
 - （イメージ3）シンプルに現象と警戒レベルの数字のみの名称とする。

議論のため、(1)～(3)の対応案も踏まえ、上述の3つの名称イメージを次頁より提示。
加えて、これらイメージから派生したイメージについても参考として提示。

警戒レベル相当情報の名称（イメージ1）

【イメージ1】

洪水に関する情報について、大雨浸水、土砂災害及び高潮に関する情報と同様に「特別警報」、「警報」及び「注意報」のワードを用いる

- ポイント①,②,④,⑤,⑥を踏まえたイメージとして整理。
- 警戒レベル相当情報以外の特別警報・警報・注意報（暴風、大雪等）の名称とも横並びが揃う。
- 警戒レベル5相当情報について、河川は災害発生を確認してから発表され、高潮は災害発生又は切迫している状況を確認して発表されるが、この場合、「発生」していることが表現されていない。
- この場合、現行の法制度では「洪水の特別警報」の定めがないことから、その規定化について検討が必要。

		洪水に関する情報	大雨浸水に関する情報 ※1	土砂災害に関する情報	高潮に関する情報	警戒レベル相当情報以外の特別警報、警報、注意報
		氾濫による社会的影響大の河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫	内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫			
発表単位		河川ごと	基本的に市町村ごと	基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※2	基本的に市町村ごと
警戒レベル相当情報	5相当	氾濫特別警報 レベル5	大雨特別警報 レベル5	土砂災害特別警報 レベル5	高潮特別警報 レベル5	警戒レベル相当情報としての位置付け無し ○○特別警報 ○○警報 ○○注意報 例：暴風、大雪等
	4相当	氾濫警報 レベル4	大雨警報 レベル4	土砂災害警報 レベル4	高潮警報 レベル4	
	3相当	氾濫警報 レベル3	大雨警報 レベル3	土砂災害警報 レベル3	高潮警報 レベル3	
	2	氾濫注意報 レベル2	大雨注意報 レベル2	土砂災害注意報 レベル2	高潮注意報 レベル2	

※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後検討。

※2 発表単位をどうすべきかについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。

警戒レベル相当情報の名称（イメージ2）

【イメージ2】

大雨浸水、土砂災害及び高潮に関する情報について、洪水に関する情報と同様に「発生情報」、「危険情報」、「警戒情報」及び「注意情報」を用いる

- **ポイント①,②,④,⑤,⑥(一部)**を踏まえたイメージとして整理。
- 対象となる現象の区別がつくよう、現象を示すワードは一部簡略化していない。
- 警戒レベル5相当情報について、大雨浸水及び土砂災害は、災害発生の確認が困難であるが、「発生情報」の名称で発表されることとなる。なお、高潮は災害発生又は切迫している状況を確認した場合に「発生情報」として発表。

		洪水に関する情報	大雨浸水に関する情報 ※1	土砂災害に関する情報	高潮に関する情報	警戒レベル相当情報以外の特別警報、警報、注意報
		氾濫による社会的影響大の河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫	内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫			
発表単位		河川ごと	基本的に市町村ごと	基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※2	基本的に市町村ごと
警戒レベル相当情報	5相当	河川氾濫発生情報 レベル5	大雨浸水発生情報 レベル5	土砂災害発生情報 レベル5	高潮氾濫発生情報 レベル5	警戒レベル相当情報としての位置付け無し
	4相当	河川氾濫危険情報 レベル4	大雨浸水危険情報 レベル4	土砂災害危険情報 レベル4	高潮氾濫危険情報 レベル4	○特別警報
	3相当	河川氾濫警戒情報 レベル3	大雨浸水警戒情報 レベル3	土砂災害警戒情報 レベル3	高潮氾濫警戒情報 レベル3	○警報
	2	河川氾濫注意情報 レベル2	大雨浸水注意情報 レベル2	土砂災害注意情報 レベル2	高潮氾濫注意情報 レベル2	○注意報 例：暴風、大雪等

※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後検討。

※2 発表単位をどうすべきかについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。

警戒レベル相当情報の名称（イメージ3）

【イメージ3】

シンプルに現象と警戒レベルの数字のみの名称とする

- **ポイント①,②,③,⑤,⑦**を踏まえたイメージとして整理。
- この場合、レベルという言葉だけでは緊張感を持った行動ができにくいとの意見もある。

		洪水に関する情報	大雨浸水に関する情報 ※1	土砂災害に関する情報	高潮に関する情報	警戒レベル相当情報以外の特別警報、警報、注意報
		氾濫による社会的影響大の河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫	内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫			
発表単位		河川ごと	基本的に市町村ごと	基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※2	基本的に市町村ごと
警戒レベル相当情報	5相当	氾濫レベル5	大雨レベル5	土砂災害レベル5	高潮レベル5	警戒レベル相当情報としての位置付け無し ○ ○ 特別警報 ○ ○ 警報 ○ ○ 注意報 例：暴風、大雪等
	4相当	氾濫レベル4	大雨レベル4	土砂災害レベル4	高潮レベル4	
	3相当	氾濫レベル3	大雨レベル3	土砂災害レベル3	高潮レベル3	
	2	氾濫レベル2	大雨レベル2	土砂災害レベル2	高潮レベル2	

※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後検討。

※2 発表単位をどうすべきかについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。

警戒レベル相当情報の名称（イメージ：参考1）

【イメージ1と2を合わせたイメージ】

- 洪水に関する情報については「氾濫〇〇情報」を、その他の情報については「特別警報・警報・注意報」を用いる。
- 現行の情報名称を当てはめた場合（8ページ）に近いイメージ。
- **ポイント①,④,⑤,⑥**を踏まえたイメージとして整理。横並びは揃っていない。

		洪水に関する情報	大雨浸水に関する情報 ※1	土砂災害に関する情報	高潮に関する情報	警戒レベル相当情報以外の特別警報、警報、注意報
		氾濫による社会的影響大の河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫	内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫			
発表単位		河川ごと	基本的に市町村ごと	基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※2	基本的に市町村ごと
警戒レベル相当情報	5相当	氾濫発生情報 レベル5	大雨特別警報 レベル5	土砂災害特別警報 レベル5	高潮特別警報 レベル5	警戒レベル相当情報としての位置付け無し 〇〇特別警報 〇〇警報 〇〇注意報 例：暴風、大雪等
	4相当	氾濫危険情報 レベル4	大雨警報 レベル4	土砂災害警報 レベル4	高潮警報 レベル4	
	3相当	氾濫警戒情報 レベル3	大雨警報 レベル3	土砂災害警報 レベル3	高潮警報 レベル3	
	2	氾濫注意情報 レベル2	大雨注意報 レベル2	土砂災害注意報 レベル2	高潮注意報 レベル2	

※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後検討。

※2 発表単位をどうすべきかについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。

警戒レベル相当情報の名称（イメージ：参考2）

【イメージ3に災害の説明を加えたイメージ】

- イメージ3のシンプルな名称に加え、対象とする災害の現象を説明する名称（イメージ2）を合わせている。
- **ポイント①,④,⑤,⑥**を踏まえたイメージとして整理。横並びは揃っていない。
- 警戒レベル5相当情報は「発生情報」を基本とし、発生情報の発表が難しい事象に「特別警報」を用いている。なお、高潮については、災害発生又は切迫している状況を確認した場合に「発生情報」として発表。
- 警戒レベル2～4相当情報は、現行の洪水に関する情報名称に合わせている。
- 名称全体が長いいため、伝える際はシンプルな名称のみを用いるなどの工夫が必要と考えられる。

		洪水に関する情報	大雨浸水に関する情報 ※1	土砂災害に関する情報	高潮に関する情報	警戒レベル相当情報以外の特別警報、警報、注意報
		氾濫による社会的影響大の河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫	内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫			
発表単位		河川ごと	基本的に市町村ごと	基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※2	基本的に市町村ごと
警戒レベル相当情報	5相当	洪水レベル5 氾濫発生情報	大雨レベル5 浸水特別警報	土砂災害レベル5 土砂災害特別警報	高潮レベル5 氾濫発生情報	警戒レベル相当情報としての位置付け無し ○ ○ 特別警報 ○ ○ 警報 ○ ○ 注意報 例：暴風、大雪等
	4相当	洪水レベル4 氾濫危険情報	大雨レベル4 浸水危険情報	土砂災害レベル4 土砂災害危険情報	高潮レベル4 氾濫危険情報	
	3相当	洪水レベル3 氾濫警戒情報	大雨レベル3 浸水警戒情報	土砂災害レベル3 土砂災害警戒情報	高潮レベル3 氾濫警戒情報	
	2	洪水レベル2 氾濫注意情報	大雨レベル2 浸水注意情報	土砂災害レベル2 土砂災害注意情報	高潮レベル2 氾濫注意情報	

※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後検討。

※2 発表単位をどうすべきかについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。

検討の整理に向けて

- 事務局において実施した事前の意見聴取では、警戒レベル相当情報の名称に対する一般や関係機関の印象・認識が必ずしも一様ではないことが確認できた。
- 各論点への対応について、特に重視すべき事項は何かを確認したうえで議論を進める必要がある。
- 名称の候補が、
 - ✓ 危機感が適切に伝わり、警戒レベルを連想しやすい名称となっているか
 - ✓ 変更後の名称の方が、変更前の名称に比べて、情報の意味するところが有意に伝わりやすくなっているか
 - ✓ 情報の受け手における理解のしやすさ、情報の伝え手における伝えやすさの観点から望ましい名称となっているかについて、確認しつつ議論を進める必要がある。



- 本検討会において、望ましい警戒レベル相当情報の名称案を取りまとめ。
- 名称の最終決定は、法制度や実際の伝え方なども踏まえ、気象庁・国土交通省が行う。
- 情報名称の周知とあわせて、「警戒レベル」そのものの周知も進めることが必要。

解説情報の名称検討

解説情報の改善の考え方

(1) 解説情報の内容に応じた整理

【防災気象情報に関する検討会第6回資料より】

- 解説情報の性質の違いを考慮のうえ、**極端な現象を速報的に伝える情報**と**網羅的に解説する情報**に分類して提供し、それぞれの情報の性質について利用者の理解が進むよう、周知・普及に取り組む。
 - ・ 「**極端な現象を速報的に伝える情報**」は、危険な状況となるおそれを伝える警戒レベル相当情報をはじめとする警報を補足するため、線状降水帯をはじめとした具体的な極端現象が発生または発生しつつある場合に、当該現象を対象に発表される情報。
 - ・ 「**網羅的に解説する情報**」は、現在及び今後の気象状況や災害発生危険度の見通しを網羅的に伝える情報。

(2) 解説情報へのアクセス性の向上

- 「**極端な現象を速報的に伝える情報**」と「**網羅的に解説する情報**」の区別がつくよう、それぞれについて統一的な情報名称とし、「線状降水帯」などのキーワードを付すことにより、情報へのアクセスを改善する。

(以下略)

対応や行動が必要な状況であることを伝える簡潔な情報

(A-1) 「警戒レベル」に相当する情報

(情報例)

- ・ 土砂災害に関する情報
- ・ 洪水に関する情報
- ・ 大雨浸水に関する情報※1

← 補足

(A-2) (A-1)以外の特別警報・警報・注意報（警報の無い注意報も含む）

(情報例)

- ・ 大雪警報
- ・ 雷注意報

← 補足

極端な現象を速報的に伝える情報

(B-1) (A-1)と結びつきが強い情報

(情報例)

- ・ 記録的短時間大雨情報
- ・ 顕著な大雨に関する気象情報
- ・ 24時間降水量等が記録的となった場合の情報

(B-2) (A-2)と結びつきが強い情報

(情報例)

- ・ 顕著な大雪に関する気象情報
- ・ 竜巻注意情報

気象状況を網羅的に解説する情報

(C) 気象状況を網羅的に解説する情報

(情報例)

- ・ 全般/地方/府県気象情報
- ・ 全般台風情報

※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後検討。

情報改善の方針を踏まえた名称検討

- 「極端な現象を速報的に伝える情報」と「網羅的に解説する情報」それぞれについて統一的な名称を検討する。
- 何に着目した解説情報なのかがわかるよう、名称に「キーワード」を付すこととしたい。

【案】

極端な現象を速報的に伝える情報



名称：気象速報（キーワード）

<例>

- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準に該当 → 気象速報（線状降水帯発生）
- 「記録的短時間大雨情報」の発表基準に該当 → 気象速報（短時間大雨）
- 「顕著な大雪に関する気象情報」の発表基準に該当 → 気象速報（短時間大雪）
- 「竜巻注意情報」の発表基準に該当 → 気象速報（竜巻予測／目撃）

網羅的に解説する情報



名称：気象解説情報（キーワード）

<例>

- 線状降水帯の発生可能性について半日程度前から解説 → 気象解説情報（線状降水帯予測）
- 台風の実況及び予測について解説 → 気象解説情報（台風第○号）